

■活動状況

イベント

▼定例観望会

・2015/3/7
備中国分寺駐車場で予定されていた観望会は降雨悪天候のため中止されました。

・2015/4/11
場所：総社市備中国分寺
参加者：会員 15 名、一般 5 名の合計 20 名。



春霞と薄雲のかかる微妙な夜空でしたが、星空解説を聞いたり、惑星・二重星をみたりと夜半まで春先の星を楽しむことができました。

・2015/5/16
場所：美作市大芦高原
参加者：会員 15 名、一般 2 名の合計 17 名。



日中は雨と曇りでしたが、夕方から急速に回復し、薄雲を通してですが一晩

晩春の星空を楽しみました。遠方からの会員も多数参加してにぎわいました。

▼観望会以外のイベント

・2014/2/7
名称：サイピアコラボ観望会（講話支援）
場所：人と未来の科学館サイピア
会員 7 名参加

・2015/2/27
名称：天文講座「君もガリレオ！冬の星座を見よう」（支援）
場所：岡山市立福島小学校（南区）
会員 4 名参加



統計情報

過去3ヶ月（2015/2～2015/4）の件数等の報告

- ▼問い合わせ・入会等
- ・9件 ※HPフォームからのもの
- ▼メーリングリスト利用状況
- ・498件
- ※対前四半期比約12%減
- ▼会員数
- 前四半期中に会員7名増、退会5名があり、2015年4月末時点の会員数は、93名となりました。



■連載記事

天体ガイド

第17回 お手軽天の川散策

すごしやすい季節になりましたが、日中の夏を思わせる日差しに早くも夏バテ気味です。これからの季節、夜空では濃く美しい天の川と夏のにぎやかな星座たちがその雄大な姿を見せてくれます。望遠鏡で星空を探索するのも魅力的ですが、今回は肉眼と双眼鏡程度で気軽に夏の天の川を散策してみたいと思います。

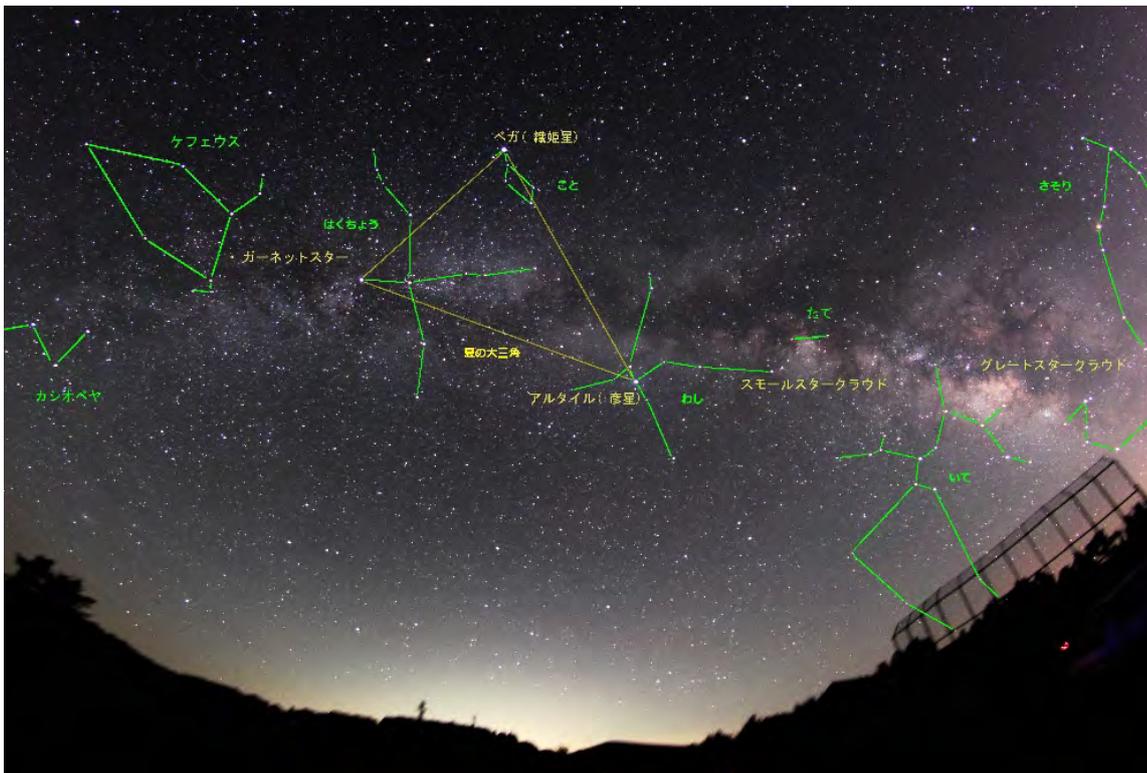
それでは、天の川を探してみましよう。南の空低くにあるさそり座から夏の天の大三角の中を通り北の空にあるカシオペア座の方向に流れているうっすらと光る白い帯が見えたら、それが天の川です。初めて見る方は想像していたものと違うかもしれません。写真で見ると鮮やかなものではなく、少々頼りなく光る白い帯です。天の川はと

近々のクラブイベント

5月30日（土）定例観望会
総社市 備中国分寺北駐車場
月齢 12.3 2:33 入

7月18日（土）定例観望会
岡山市 六番川水の公園
月齢 16.3 20:51 出

※開催場所など変更になる場合があります。詳細はホームページピックスにて開催日近くにご確認ください。



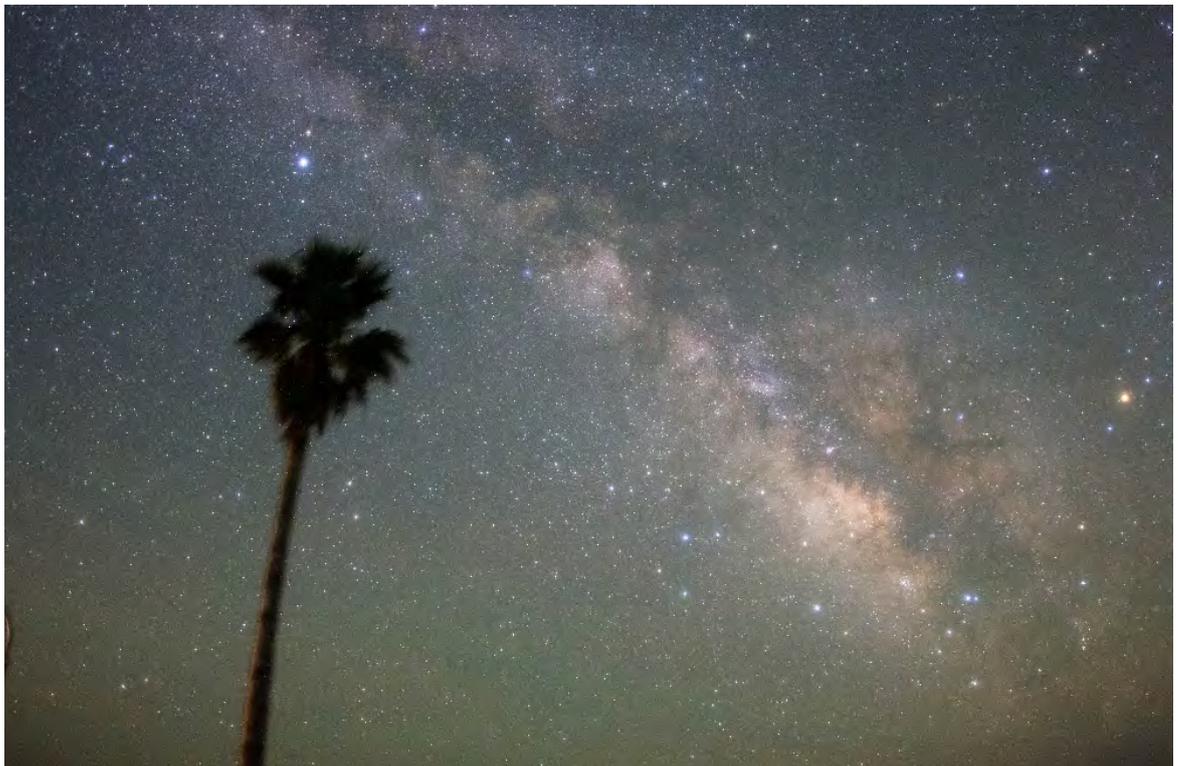
もう少し天の川を進むと、今度は天の川のど真ん中をはくちょう座が優雅に翼を広げて飛んでいます。はくちょう座は北十字とかノーザンクロスとも呼ばれる十字の形をした星座で、お尻の星デネブは夏の大三角の頂点の一つでもあります。このはくちょうはゼウスがスパルタの王妃レダを

でも淡く、空の状況によって見え方が全然違ってきます。条件が整った日には、はっきりとその美しい姿を確認することが出来るでしょう。

ではざっと天の川を見て行きたいと思えます。まずは北の空にカシオペヤ座を見つけましょう。W字型の星のならびはとて有名で、誰でも一度は見たことがあるのではないのでしょうか。カシオペヤから天の川を南にもう少し進むと、西の岸に五角形を潰したような形をしたケフェウス座がいます。ケフェウスはエチオピアの王様でカシオペヤはその妻とされています。この二人の子供がアンドロメダで、この親子にはとて

も有名な物語があるのですが、長くなりそうなので今回は省きます。ところで、ケフェウス座にはおすすめの星があります。 μ 星のガーネットスターと呼ばれる星で、4等星と暗く肉眼で見てもぼっとしない星ですが、双眼鏡で覗いてみるとその名の通りまさにザクロ石色に輝いています。独特なとても美しい赤色なので、ここでは是非見ておきましょう。

見初め、彼女に近づくために化けた姿だと言われています。その後レダは卵を産み、その卵から孵ったのがふたご座のカストルとポルックスとなったのだとか。ちょうどこのあたりから天の川は2本に分かれていて、西側の流れはなんだか途中でうやむやに途切れたようになってしましますが、東側の流れは南に行



くにつれて
 どんどん濃く
 川幅が広く
 なっていきま
 す。この天
 の川を分け
 る中州のよ
 うに見える
 部分は、暗
 黒帯と呼ば
 れ、いわゆ
 る暗黒星雲
 が背後の星
 を隠している
 ため、周り
 の部分より
 暗く見えて
 いるのです。
 古代インカ
 の人々はこの
 暗黒帯を天
 の川に水を
 飲みに来た
 た、きつね
 やへび、カ
 エル等の動
 物に見立てて
 いました。



ここでは、徐々に濃くなっていく天の川の濃淡を楽しんだり、暗黒帯がどんな動物に見えるか試してみましよう。上に書いた動物以外にも、他のものに見えたり新しい発見があるかもしれません。

はくちょう座の嘴あたりから西の岸でひと際明るく輝いているのがこと座のベガで、もう少し南寄りの東の岸で輝いているのがわし座のアルタイルです。どちらの星も夏の大きな三角の頂点になる星です。日本ではベガは織姫星、アルタイルは彦星としてとても有名ですよね。七夕の説話の通りちゃんと天の川に隔てられています。因みにはくちょう座は七夕の日に二人が逢うために架けられるカササギの橋だと云われています。ただし、七夕の日に雨が降ると天の川の水かさが増し、二人は会えなくなってしまいます。この日の雨は二人の流す涙と言われ、催涙雨と呼ばれます。今年は雨が降らなければと良いですね。ここでは七夕伝説の主人公二人に思いを馳せ、少し感傷的な気分になりながら恋人と星空を眺めることをお勧めします。二人の距離もぐっと近づくと良いでしょう。

さらに南に進むと、次第に天の川が濃く広がっていき、たて座から天の川中心部、いて座とさそり座のあたりにたどり着きます。ここは銀河の中心方向にあたり、さまざまな天体がたくさん集

まっています。とても賑やかな場所です。

いて座はケンタウロス族のケイロンが弓を引く形で描かれます。いて座の特徴は南斗六星と呼ばれる北斗七星に似た柄杓型の6つの星の配置です。中国では北斗と南斗は対の存在で北斗が死を、南斗が生を司っていると考えられ、生き物の寿命はこの二人によって決められているそうです。いて座が放とうとしている矢の先を見てみると、さそりの心臓にあたるアンタレスが赤く輝いています。さそり座は夏を代表するとても目立つ星座で、S字を描くその形は釣り針のようにも見えることから、瀬戸内の漁師たちの間では鯛釣星とも呼ばれ親しまれてきました。このさそりは頭に乗ったオリオンを殺すために女神ヘラが放った刺客であり、その毒針で見事にオリオンを仕留めました。さそりもオリオンも星座になりましたが、さそり座が昇ってくるとオリオン座は逃げるように地平線に沈みます。オリオンはまださそりに怯えているんですね。

たて座にはスモールスタークラウド、いて座にはグレートスタークラウドと呼ばれる天の川がひと際濃い部分があり、適当に双眼鏡を向けるだけでも十分楽しめます。ものすごい数の屑星がうじゃうじゃ見えて、天の川が星の集まりだとういうことがよく分かります。たて座にはM11という散開星団があり、双眼鏡では星団っぽくは見えないのですが、バックの星の多さと相まってとても美しいで

す。

いて座とさそり座の辺りには見応えのある星雲・星団がたくさんあってどれを見ようか迷ってしまうのですが、双眼鏡で見ると、いて座では南斗六星の少し上辺りに並んでいるM23、M24、M25。さそり座では尻尾の先っぽにλ星のシャウラとν星のレサトが仲良く並んでいて、猫の目とか蟹の目とか呼ばれているのですが、その近くにあるM6とM7の2つの散開星団がおすすめです。この辺りは双眼鏡でじっくりと楽しみましよう。

さて、駆け足で天の川をたどってきましたが、他にも今回紹介していない星座や望遠鏡を通して見ると大迫力の星雲・星団など、まだまだ夏の夜空は見どころ満載です。市街地では天の川を見ることはほぼ不可能でしょうが、夏休みに山へキャンプに行ったり、超田舎のご親戚の家へ遊びに行くような機会がもしあれば、是非夜空を見上げてみて下さい。美しい天の川を見ることができるとは思いません。当クラブでも定期的に観望会を開いておりますので、一度覗きにいられてはいかがでしょうか。愉快的紳士たちが、あなたをディープな星空の世界へエスコートしてくれることでしょう。この夏、旬の天の川を楽しんでみてはいかがでしょうか？

執筆と文中写真：ukisu

うんちくあれこれ

第25回 土星でも作ってみる？

早いものでまたまた会報執筆の順番が回ってきちゃいました。(汗)

正直うんちくどうこう語るだけのスキルも持ち合わせておりませぬゆえ、今回のこのピンチ、どう切り抜ければよいのやら…。マニア向けのうんちくは他の方にお任せするとして、今回は数年前に岡山アストロクラブの活動・写真展の展示品として作った10億分の1スケールの太陽系惑星モデルの中で子供たちにも人気のある土星の作り方を簡単に紹介したいと思います。

○必要なもの

- ・発砲スチロール球 : 本体になりませぬ 直径12cm
- ・アクリル板 : 輪っかになります 1mm厚 (色は透明かスモーク)
- ・ピアノ線または真鍮線 : 本体を支える棒 1.2mm以上、太い方が安定します
- ・真鍮線 : 本体に差して輪っかを支えます 1mm前後の線を長さ2cm前後に切って3本つくる
- ・発砲スチロール製ブロック : 土台になるものならなんでも可
- ・サークル・カッター : 輪っかの切り出しに使用
- ・ブラサフ : タミヤのプラモデル用サフエーサー (本体に着色する際の下地として使用)
- ・塗料 : プラカラーまたはアクリル絵の具
- ・ピンバイス : サークルカッターの中心がずれないようにする為に使用 (細かいキリでもいけるかな?)
- ・コンパス : 鉛筆が挟めるタイプ 輪の空隙を書くのに使用
- ・マッキー : 言わずと知れた油性マジック

○本体の作り方

- 1 発砲スチロール球を中性洗剤で洗ってよく乾かします
- 2 支持棒(ピアノ線)を本体の中心位まで差し込みます(塗装時の持ち手も兼ねます)
- 3 本体にサフエーサーを吹き付ける(特にプラカラーを使用する場合はここをしっかりとっておかないと塗装時に本体が溶けて悲惨な事になります)
- 4 写真などを参考にお好みの色で(笑)本体を着色します

私はエアブラシを使ってプラカラーで塗装しましたが、お子さんが作られる時はアクリル絵の具で筆塗りでもいいと思います。



ます

アクリル絵の具使用時でもサフエーサーは吹いたほうがいいです

大人が作る際には本体の縞模様やらプラズマの再現やら気が済むまで拘ってください(笑)

- 5 本体の赤道部分より1mm位下側へ3か所、頭が5~6mmのぞく程度に真鍮線を差し込み輪っかの受けとします
- 6 完成

○輪っかの作り方 (簡単バージョン/透明アクリル板にて)

- 1 アクリル板の両面の保護用紙は剥がさずそのまま作業を進めます
- 2 作業をやりやすくするためサークルカッターの位置を決め、その中心点をピンバイスで穴をあける(0.5mmφ)
- 3 サークルカッターで外周を切り出します(半径13.5cm)
- 4 サークルカッターを半径7.5cmにセットして両面を軽く切れ込みを入れる(保護用紙が切れればOK)
- 5 7.5cm以内の中心部を残して、1の保護用紙を剥がし、露出した部分を輪っかの色(お好み)で塗装します
- 6 コンパスに細マジックをセットし、半径9cmのところにフランス環、半径13cmのところにエンケの環を書きます
カッシーニ環は半径11.7cm~11.9cmと4mm位の幅をもたせて書きます
- 7 再びサークルカッターをセットし、本体の直径に合わせ、半径6cmで切り取ります
- 8 本体に合わせてみてよければ完成

○土台にピアノ線を刺し、本体を取り付けてから輪っかを乗せれば10億分の1なんちゃって土星の完成です

サークルカッターで輪っかを切り出すところがちょっと骨が折れるかもしれません(笑)

色は参考に画像によって違うのでお好みでいいかと思います。

私の場合は望遠鏡で覗いて見た感じを思い出しながら塗りました。

部屋に飾る時は土台や背景部分を黒い布などで覆うと宇宙感がアップします。

ちなみに太陽と8惑星も作りたいとおっしゃる方は

- 水星 : 5mm
- 金星 : 1.2cm
- 地球 : 1.3cm
- 火星 : 7mm
- 木星 : 14cm
- 天王星 : 5cm
- 海王星 : 5cm
- 太陽 : 140cm

で作って頂ければコンプリートできます。

という訳でざっくり書いてみましたが、いかがでしたでしょうか?

真面目にリアルさを追求するもよし、お子さんと一緒に制作過程を楽しむもよし。たまにはこんな息抜きでもどうですか?

執筆と文中写真: Morte

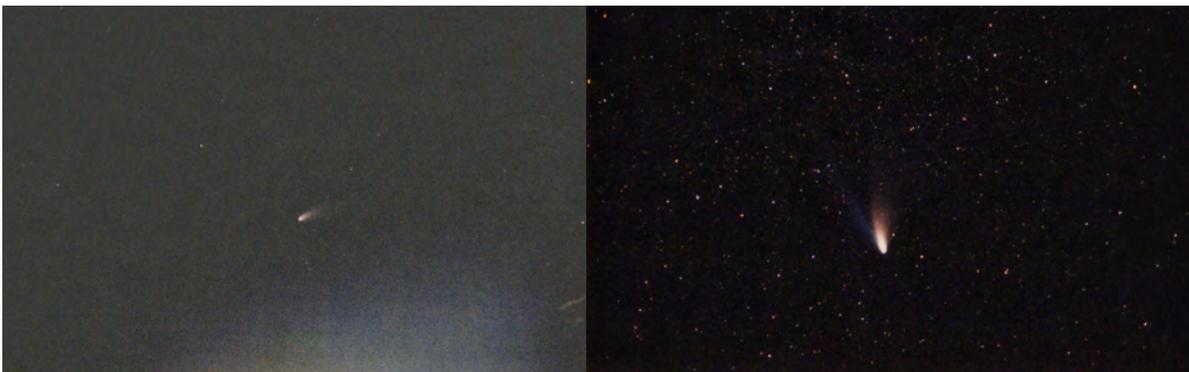
会員紹介「Yuu☆」

私が星好きになったのは小学校3年の理科で学んだのがきっかけでした。当時私が住んでいたのは千葉県我孫子市(あびこし)というところで、暗い空など無縁のところでした(東京からおよそ30km)。それでも当時住んでいたマンションの屋上で、貯めていたお年玉をすべて使って買った望遠鏡(フレンド光学スカイフレンド910:口



小学生のころ購入した
フレンド光学スカイフレンド910

径 60mm
焦点距離
910mm 経
緯台)で、
M42 や
M45、惑
星などを
見ていま
した。F
値が暗い
ので星雲
はほとん
ど見えま



百武彗星 東京都三鷹市にて撮影

せんでしたが初めて見た土星の美しさは今でも鮮明に覚えています。その後の星好きを決定づけたのが…1985年-1986年といえお分かりですね！そう、ハレー彗星です。テレビでは特集が組まれ日本中あっちこちで朝練をしていましたよね！私も親に頼みこんで筑波山のドライブインまで家族で行きました。筑波山山頂付近ではほんとに夜中？というくらいの人で、帰省ラッシュのように赤いテールランプが連なっていたのを覚えています。残念ながらF15.2の望遠鏡では捕えることはできませんでしたが、今でも愛用している8x30の双眼鏡で見ることが出来ました。公害で灰色がかかった空に薄らと尾が見えたのを今でもはっきり覚えています。その日から私の目標は長生きに変わりました。もちろんもう一度ハレー彗星に会うために…。

中学校では、当時流行っていた漫画の影響でサッカー部に入り、星からは少し離れましたが、気が向いたときに購入していた天文ガイドの「譲る求む」のコーナーでODESSEI 1型33cmF4.5のドブソニアンを見つけ、譲っていただくことにしました。ODESSEI 1型ドブソニアンは今の高性能なドブソニアンとは違い、本体は木製で重く、主鏡は置いてあるだけの単純構造でしたが、30cmオーバーの迫力、F値の明るい鏡筒は今までの望遠鏡とは比べ物になりませんでした。もちろん6cm屈折、ドブソニアンはともに実家で現役を続けています。(先日ラブジョイ彗星を見ました)

その後、何とか私を受け入れてくれた高校には天文部があったので迷わず入部することとなりました。部員には、ボクシング部を希望していて何故か天文部に入ったというような変わったメンバーが多く、望遠鏡や星に関する知識はほとんどありませんでした。ちなみに高校には、10cm反射(だったかな?)とMeade25cmシュミカセがありました。星好きなのに物理が苦手という残念な

結果になってしまったので理学系の大学はあきらめ、別の分野に進んだのですが、幸いなことに大学のそばに国立天文台がありました。三鷹の国立天文台は年に一度の一般公開を行っており、最新の研究成果や桁違いに大きな望遠鏡を見学することが出来ました。中でも65cmの屈折(焦点距離10m)は一見の価値あります。ご都合がつかましたら皆様どうぞ！

また、その頃一緒に星を見ていた友人と遠征に行く機会が増えました。関東で遠征というと長野や富士山など有名ですが、我々は、伊豆半島最南端石廊崎(いろいろざきと読みます)に行っていました。今では考えられませんが、片道6~8時間。しかもインターネットなど便利なものはなかった時代。現地の天気もわからず、勢いだけで向かっていた。まあ、学生時代なんてそんなもんですよね！石廊崎は私が今まで見た星空の中で一番きれいなところ。雲のようにはっきりと見えた天の川、星が多すぎて星座が分からなくなるとい現象に初めて陥りました。残念ながら四国遠征には一度も行っていませんが、きっと徳島にもそんな星空が待っているのでしょう。いつか行ってみたいです！

撮影に関しては、小学校のころから固定撮影をしていました。当時は今のようデジタルカメラなどない時代ですから、家にあった古い一眼レフカメラ(Canon FT-b 50mm f1.8)にISO800やISO1600のフィルムを購入し、星座を中心によく撮影していました。

私のフィルム時代の作品で一番気に



Canon FT-b 50mm f1.8

ヘールボップ彗星 撮影地忘れしました

入っているのが、大学生の頃話題になった2大彗星、百武彗星とヘールボップ彗星です。百武彗星は当時住んでいた東京郊外で、ヘールボップ彗星は、撮影場所は忘れましたが、へたくそなりにきれいに写ったので相当明るく大きな彗星だったと思われれます。

その後就職し、2003年より岡山に住むこととなりました。岡山に来た頃は、もちろん右も左もわからず車で遠出には苦労したのを覚えています。そんな中、ドライブがてら岡山物理天体観測所と、美星天文台には良く行っていました。特に美星天文台ではあんな大きな望遠鏡でいろいろなものを見せてもらえることがうれしくて新月期は夜な夜な出かけていました。

その頃、美星天文台で岩倉の主 Miz様と出会いOACのことを聞きました。まずは観望会と思い、初めて参加したのが大芦高原でした。場所が分からず苦労しましたが無事に到着し皆様と楽しいお話をさせていただきました。その後岩倉観望会を経て夫婦そろって入会となりました。今では頭から足の先までとっぷりと浸かっています。

このように天文歴で言うと30年以上と、そこそこ長いのですが、途中離れた時期もあり何とも浅い知識ですが、皆様から多くのアドバイスをいただき何とか撮影できるまでになりました。今後は、雑誌投稿を目標に活動を続けていきたいと思ひます。皆様宜しくお願ひ致します。

私の友人は東京都西部で流星の観測をメインに行っています。気に入った写真を送っていたら、メシエカタログを作ってHPで公開してくれました。もしよろしければ、そちらもご覧ください。<http://www7a.biglobe.ne.jp/~fullmoon/messier.htm>
又は「Messiecatalog 岡山アストロクラブ」で検索してください。

執筆と文中写真：Yuu☆

■特別企画「天文川柳」第二弾

4月下旬、てつにいさん発案で「天文川柳」の募集が行われました。一昨年に引き続き2回目です。短期間にもかかわらず100を超える多くの川柳が集まりました。5月10日に選考が行われ、最優秀de賞など7首を選びましたのでこの紙面にてご紹介します。

👑 最優秀 de 賞

【作者のひと言】大変光栄な最優秀賞を頂き、とても嬉しく思っております。
私たちが見ている星の光は何万年も前の光を見ているのです。想像も付かない位の距離ですね。
そんな広い広い宇宙の事を考えながら星を見てると…自分ごとでも小さな存在だと思えて来ました。
そんな自分の悩みなんか、ぜんぶ、アホらし！
って思った事を詠んでみました。
そんな思いを共有できるOACの仲間に出会えた自分はとても幸せ者っす！（笑）

「星を見て
小さな悩みが
アホらしく
オーツカ

👑 風流 de 賞



【作者のひと言】暗い空を求めて岡山を離れること幾十里、太平洋を望むヤシの木の上、漆黒の夜空に雲より白く茫と光る天の川の光景を詠みました。

「南国の
夜空よこたふ
天の川」
T#

👑 愉快 de 賞



【作者のひと言】星見ではとかく大口徑のものもてはやされますが、ラブリンな二人には小さな双眼鏡のほうがよいのかな？

「双眼を
ふたりで覗く
アイピース
つるつるうどん

👑 残念 de 賞



【作者のひと言】天文屋なら誰でも経験する風景を句にしました。岩倉や大芦のような標高の高い観望地は、本当に天候がコロコロ変わりますが、空の変化を予測できる？域に達する事ができるよっ、これからも精進します！

「さあ撤収
トランク開けたら
晴れ間見え」
ミツキ

👑 特別 de 賞

【作者のひと言】岡山アストロクラブの観望会は、言わずと知れたツフモノの集まりです。カメラ機材も、望遠鏡機材も、また、皆様の頭脳も…然りです。初めて参加した時の驚きと感動を表現しました。「オタク」「マニア」という言葉に抵抗がある方には申し訳ありませんが、私なりの賞賛を込めた皮肉でございます。この天文川柳のご確認の意味も込めて、皆様、観望会にぜひお越しください。

「暗闇で
オタクはだあれ
開くマニア」
miyococo

👑 特別 de 賞



【作者のひと言】撮影の際はいつも準備やセッティングに時間がかかり、パソコンとにらめっこなんてことは良くありますよね！いけないとわかりつつ、つい熱中してしまいます。そんな状況を歌にしてみました。

「撮影会
星見はせずに
パソコン見」
Yuu☆

👑 特別 de 賞



【作者のひと言】2001年のしし座流星群の時の、大流星雨を思い出しながら詠んだ句です。あの時は、天文学者アッシュャーさんの出現予告が当たりで、一晩中、空を埋めつくすほどの流星雨が見れました。またあれくらい流星雨を見てみたいですね。麗しの君ととも！

「麗しの
君に見せたい
流星雨」
hawk

いかがでしたか？会員の皆さんが様々な思いを込めて詠んだ句は？あるあると頷いたり、光景を想像して吹き出してみたり。会員さんの天文に対する様々な思いを見ることができて楽しかったです。紙面上の都合で全部の句は掲載できませんでしたが、入選作品30首も掲載いたしました。
なお、最優秀de賞のオーツカさんには、5月16日の定例観望会にて記念メダルの授与されました。



■入選作品

- 「連休は いえにいてよね くさざれ」(カワニシ)
- 「朝起きて 晴天見上げ 後悔す」(Gumbo)
- 「季節感 気温と共に 星で知り」(Yuu☆)
- 「おい黄砂 人の都合も 聞いて来い」(kuroiso)
- 「春の朝 夜明け前は 夏の朝」(一番星)
- 「雲がない 晴れたよ日に 黄砂有り」(かげとも)
- 「春黄砂 夏は気温に 冬寒さ」(Yuu☆)
- 「星見には 禁酒・禁眠 ストイック」(miyococo)
- 「ビント出し 写真撮る前 マガネ取る」(Sirius)
- 「出撃の 許可をとるため あれこれ」(hawk)
- 「ロマンチスト？ いえオイラは リアリスト」(オーツカ)
- 「観望会 とっても危険な 魅惑会」(てつにい)
- 「迷います 中途半端な 天気予報」(六甲山)
- 「天体を見たいと思ひ 雨恨む」(かげとも)
- 「空曇り ダークな気分で ダーク撮り」(Sirius)
- 「夕晴れに 髪ひかれつつ 夜の街」(T#)
- 「意気揚々と 着いて気付く 忘れ物」(てつにい)
- 「老眼の 自分に付けない パーティソフ」(tail,deft)
- 「ほしはすばる 後はなんだっけ サテナなんだっけ」(たぬき)
- 「リッチーな 鏡筒手を出し ふとこる寒し」(ルーター)
- 「星テート 見え味ほめられ 照れスコップ」(つるつるうどん)
- 「出れない日 曇り空見て ほくそ笑む」(ミツキ)
- 「帰り道 ほんとうに欲しい 自動運転」(kuroiso)
- 「仕事あけ 早速上見る 星探す」(てつにい)
- 「ゆうやみの 西にかがやく 一番星」(一番星)
- 「天文畑 畑の周りは 沼ばかり」(オーツカ)
- 「終夜晴れ 天文冥利に 尽きる夜」(六甲山)
- 「嫁の目を 盗んで 夜明けに出撃だ」(カワニシ)
- 「星を見に どこまで行くの 怪しまれ」(かげとも)
- 「見上げれば 天空またく 大彗星」(T#)

発行元：岡山アストロクラブ
発行日：平成27年5月21日

執筆：
「天体ガイド」ukisu
「うんちくあれこれ」Morte
「会員紹介」Yuu☆

編集：T#
次号発行予定：平成27年8月
執筆予定：

- ・天体ガイド hawk
 - ・うんちくあれこれ OmegaC
 - ・会員紹介 nasu
- ホームページアドレス
<http://oac.d2.r-cms.jp/>